

下野市立国分寺西小学校

1 学校課題

一人ひとりの思いを深め、自分らしくよりよく生きようとする児童の育成
～「道徳の時間」における話し合いの充実を目指して～

《仮説1》 「道徳の時間」において話し合いの充実を図れば、一人ひとりの思いを深め、自分らしくよりよく生きようとする児童育成することができるであろう。

共感する力や思いやりの心、協力し合う態度を育て、集団や社会の一員としての自覚と責任を育む道徳教育になるように「道徳」時間では一人ひとりの意見を大切にし、話し合いを深める。

《仮説2》 児童の学校生活全体と道徳の時間との関連を図れば、児童は日常の生活場面で、より道徳的に判断し行動することができるであろう。

児童が自分の考えを持ち表現できる指導や話し合い活動で道徳的価値の理解を深める指導を研究する。

2 研究経過

(1) 授業研究の概略

教科等		研修内容	
①	道徳 1年	月 日 指導者 授 業	7月3日 栃木県教育委員会学校支援課 指導主事 土方 勝先生 1年わがままなきもち1-(1) 節度・節制, 自立 資料名「かぼちゃのつる」(出典:「みんなのどうとく」学習研究社)
②	道徳 5年	月 日 講 師 授 業	9月6日 宇都宮大学教育学部 准教授 森田香緒里先生 (下野市S&Uコラボ事業研究会) 下野市教育委員会学校教育課 指導主事 高山靖子先生 5年みんなの力で 4-(3) 役割と責任の自覚 資料名「森の絵」 (出典:塚野征作「文部省・小学校読み物資料とその利用第4集」)
③	道徳 2年	月 日 指導者 授 業	9月9日 下野市教育委員会学校教育課 指導主事 塩沢建樹先生 2年 親切の花をさかせよう 2-(2) 思いやり・親切 資料名「こころの花」(出典:「みんなのどうとく」学習研究社)
④	国語	月 日 講 師 講 話	11月27日 宇都宮大学教育学部 准教授 森田香緒里先生 (下野市S&Uコラボ事業研究会) 「海外の作文指導をもとにした作文指導の方法について」
⑤	道徳 5年	月 日 講 師 授 業	1月23日 小山市立大谷東小学校 校長 中山和彦先生 示範授業 5年 人の心の温かさを感じて 2-(2) 思いやり・親切(人生カードより 渡邊 達生 作) 資料名「思いもよろぬできごと」(出典:「みんなのどうとく」学習研究社) 心のノートP44・45

(2) 授業研究の実際

①第1回研究会

1年 道徳 資料名「かぼちゃのつる」

- ・価値の確認をしているのがよい。
- ・全員が発表できるとよい。
- ・どんどん発表できるのはよいが、時には待たせることも必要。
- ・掲示資料がよく、授業の流れが分かりやすかった。
- ・ワークシートを使用することよい。



②第2回研究会（S&Uコラボ事業研究会）

5年道徳 資料名「森の絵」

- ・国語の教科書と道徳副読本では登場人物の表情の描き方が違い、文章を注意深く読み取ることで、人物の気持ちを考えるきっかけになる。
- ・「書くこと」は、低学年のうちからやっておくとよい。道徳の授業では、主人公の気持ちを書いたり、日頃から作文を書いたりすることが重要。



③第3回研究会

2年道徳 資料名「こころの花」

- ・授業準備学校行事の写真や声のメッセージなどあってよかった。
- ・各教科との関連させ、内容・時期を明確にしていくとよい。



④第4回研究会（S&Uコラボ事業研修会）

国語 講話 「海外の作文指導をもとにした作文指導の方法について」

- ・20分で決着のつく作文指導を四つのポイント
欧米の作文指導からヒントを得る。
→以前からの五段階指導にこだわらない。
→評価の観点の一つ、自己評価相互評価を設ける。
→発想力などは、間口をせばめて課題を提示することで表現しやすくなる。

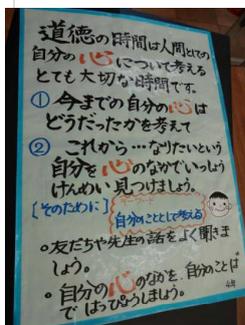


⑤第5回研究会

5年道徳 資料名「思いもよらぬできごと」

中山和彦先生 示範授業

- ・道徳的価値そのものを追及する「思いやり」「親切」とは何かという大きな発問と小さな発問（児童が資料を聞いて気になったこと）を組み合わせて投げかけていく。
- ・高学年になると指導の目的によって、資料は、身近ではない遠い資料が適してくる。「銀の燭台」「青の洞門」など。



4 研究の成果と課題

(1) 道徳の成果と課題

- ① 学校行事を通しての児童の経験と道徳の関連を図ることにより、より活発な意見が表れてきた。今後は、行事等を見直していく。内容・時期を明確にしていく必要がある。
- ② 今回の授業で、大きな発問と小さな発問を組み合わせ、価値を明確に理解し、道徳の授業をしていくと、価値に気づきやすくなることが分かった。今後は、この方法で実践を重ね、効果的な題材を選び出し、児童の心に響く授業を増やしていきたい。

(2) 国語科の成果と課題

- ① 国語の授業では作文で表現させる機会は数多い。いつでも同じように指導するのではなく、その単元でのねらいを理解し、指導すべきことを精選することで、学習の効果が上がることが分かった。
- ② 国語科での「表現力」とは何か、他教科との違いを理解することができた。国語科での表現力向上を目指す研究の基礎として、正しい方向性を得ることができた。また、その具体的な研究の進め方についても指導をいただくことができた。